

第六話

虎のはなし

「虎」

●日本には棲んでいません。からだの黄と黒のしまもようが特徴です。ときににんげんもおそうことがあるというので、おそれられています。

●泳ぎも達者で、ジャンプする力もすぐれています。



このはなしを
読むにあたって

虎は、ただ強いだけでなく、頭もいごうぶつです。うっかり油断していると、こんどはあなたも……。

虎の知恵

むかし、九州に住むある商人が、大きな船におおぜいのなかまを乗せて、新羅（かつて朝鮮半島にあった国の名前）へ渡りました。

しごとを終えて、船で帰るとちゆう、海にきりたったがけに沿って進んでいますと、がけの裂けめから水がわき出ているのを見つけました。

いまから長い旅をして日本へ帰るのに、飲み水をたくさん積んでおくのにこしたことはないですから、商人はわき水のそばに船を止め、数人を船からおろして、水をくませました。



そのあいだ、商人が船べりにもたれて、なにげなく下をのぞきこみますと、海面にがけの影がうつついています。ただ、がけの頂上のあたりになかべつものがいっしょにうつついているので、よくよく見てみますと、なんとそれは虎のすがただったのです。大きな虎が身を低くして、えものをねらっているようすがはつきりとわかりました。

商人は、水をくんでいた者たちを大急ぎで船へ呼びかえし、あわてて船を出帆させました。

すると、その瞬間、がけの頂上にいた虎が、ぱっと身をおどらせて、海面に浮かぶ船めがけてがけを飛びおりたのです。

ところが……。

船が虎の予想よりもすばやく岸をはなれたので、虎はあともう少しとい



という間に走りのぼって、すがたを消してしまいました。

左の前足が使いものにならないことなど、ちつとも感じさせない、みごとな身のこなしでした。

商人たちは、この虎と鯨の戦いを、船の中から、あつけにとられて見ていました。

そして、おどろきがおさまると、こんどは恐怖でからだがふるえました。

それはそうでしょう。一步まちがえたら、じぶんたちの船にあの虎がおどりこんで来るところだったのですから。この狭い船の中では、たとえ弓矢や刀を持ち出して戦っても、勝ち目はなかったものと思われます。

商人たちは、なんとか命びろいしたことをおたがいによろこびあいながら、なおもけんめいに船をこぎ、やがて九州へぶじに帰りついたと言います。